5 年後、弁理士の今の仕事、AI 等の影響で、何割がなくなるでしょうか？

Felo AI

概要

今後 5 年間で、人工知能（AI）技術の進化は弁理士の業務に大きな変革をもたらすと予測されます。特に、特許調査、翻訳、定型的な書類作成などの業務は AI によって大幅に効率化され、一部は自動化される可能性があります[1][22][64]。その結果、これらの業務にかかる時間は削減されるでしょう[17][25][47]。しかし、発明の本質を見抜く洞察力、クライアントとの高度なコミュニケーション、複雑な法的判断や戦略立案といった、人間の専門性や創造性が不可欠な業務は AI による代替が困難であり、むしろその重要性が増すと考えられます[11][21][56]。

現時点で「弁理士の仕事の何割がなくなるか」を正確に予測することは困難ですが、AI は弁理士の業務を完全に奪うものではなく、業務の質を変化させ、より高度な専門性が求められるようになるとの見方が大勢です[22][55]。弁理士は AI をツールとして活用し、より戦略的で付加価値の高い業務へシフトしていくことが求められるでしょう[5][9][11]。

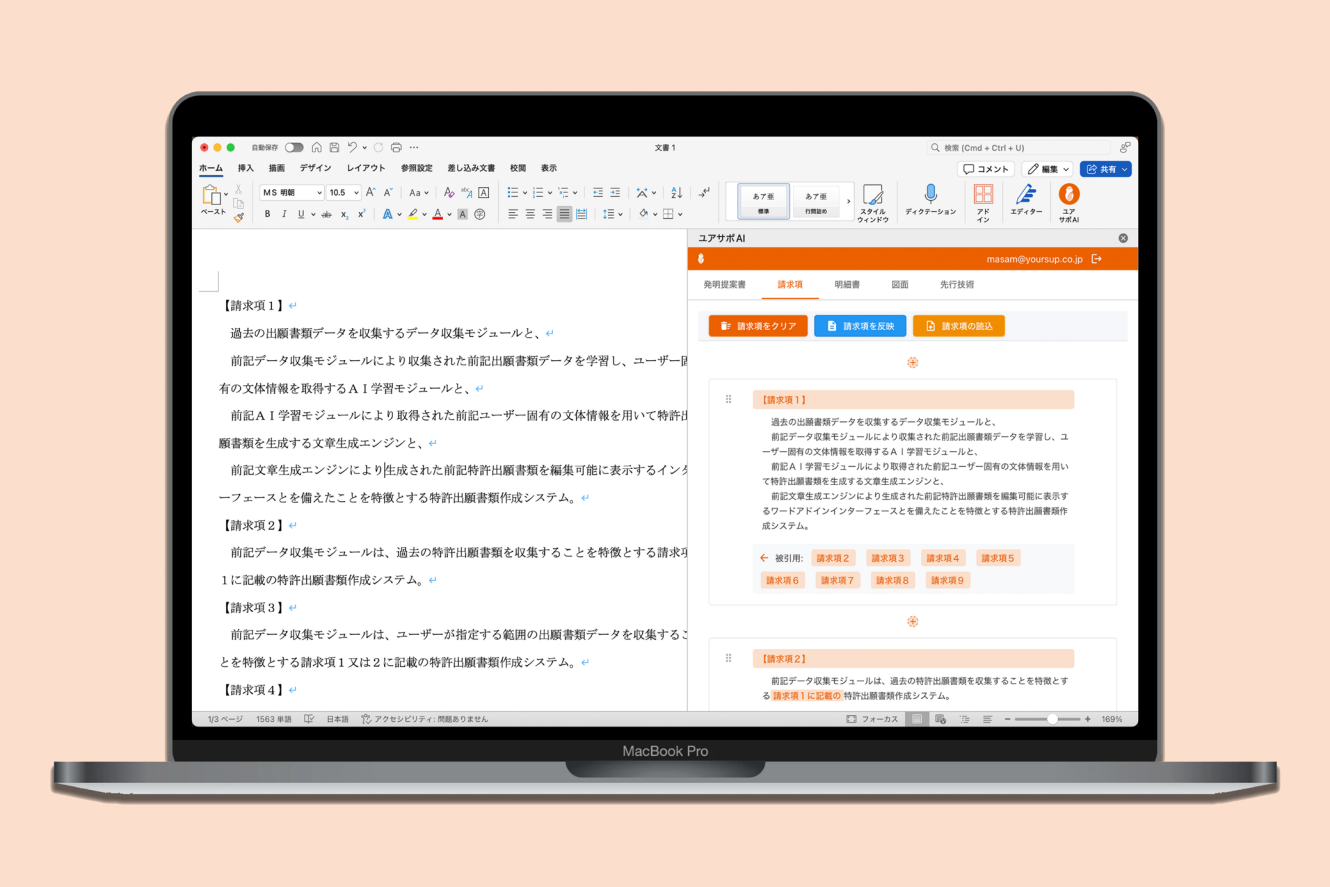
詳細レポート

AI による弁理士業務の変化と影響

効率化・自動化が期待される業務領域 AI 技術の導入により、弁理士の業務のうち、特に以下のような領域で効率化や自動化が進むと予測されています。

- **特許調査・先行技術調査**: AI は膨大な特許文献データベースを高速に分析し、関連性の高い文献を抽出することが可能です[11][22]。これにより、調査にかかる時間とコストを大幅に削減できる可能性があります[16]。WIPS や PatentSight といった AI 特許調査ツールが既に活用されています[22]。
- **特許明細書・クレーム作成の支援**: AI は、発明の概要やクレーム案に基づいて、特許明細書のドラフトを自動生成する能力を持ち始めています[1] [7] [17]。Questel の AI 搭載特許明細書作成ソフトウェアや、Tokkyo.Ai、ユアサポ AI のようなツールは、明細書作成の時間を短縮し、品質の均一化に貢献するとされています[7] [17] [25]。例えば、「ユアサポ

AI」は特許出願書類作成時間を約半分に短縮すると謳っています[25]。



- **翻訳業務**: AI 翻訳の精度は向上しており、特に特許翻訳の分野では、AI の活用によるコスト削減や時間短縮が期待されています[8][26][47]。TransPerfect は AI 活用で特許翻訳の出願費用を 40%削減した事例を挙げています[47]。
- **定型的な書類作成・管理**: 出願手続きに関する書類作成や、特許ポートフォリオ管理など、定型的な事務作業も AI によって効率化される可能性があります[12][59]。リーガルテック社の「リーガルテック VDR」と生成 AI「AI 孔明」の統合は、これらの業務の自動化を目指しています[12][59]。
- **商標調査**: ロゴ画像の類似検索など、商標分野における調査業務も AI による効率化が進んでいます[21][53][55]。

AI による代替が困難な業務領域 一方で、以下のような業務は AI による代替が難しく、引き続き人間の弁理士の高度な専門性が求められます。

- **発明の本質を見抜く洞察力と発明発掘**: クライアントとの対話を通じて発明の核心を理解し、多角的な保護アプローチを設計する業務は、AI には難しいとされています[11] [13] [21]。
- **高度なコミュニケーションと交渉力**: クライアントの意図を正確に汲み取り、特許庁の審査官との交渉や、海外代理人との調整を行うには、人間特有のコミュニケーション能力や交渉力が必要です[11][37]。

- **戦略的な知財コンサルティング**: 企業のビジネスモデルや競合状況を理解し、将来の事業展開を見据えた知財戦略を立案・提案する業務は、AI では代替できません[4] [9] [11]。
- **複雑な法的判断と倫理的配慮**: 判例の解釈、権利侵害リスクの評価、AI が生成した情報の最終的な法的妥当性の判断など、高度な法的知識と倫理観に基づく判断は弁理士の重要な役割です[2][5]。
- **訴訟対応・紛争解決**: 権利侵害訴訟における補佐や代理業務は、法的知識だけでなく、状況に応じた柔軟な対応や戦略が求められます[27][38]。

AI 時代に求められる弁理士の新たなスキルと役割 AI の進化は、弁理士に新たなスキルセットの習得と役割の変化を促します。

- **AI ツールの活用能力**: 生成 AI や各種調査・分析ツールを効果的に使いこなすリテラシーが不可欠です[11][61]。
- **情報選別・判断能力**: AI が出力した情報を鵜呑みにせず、その妥当性を吟味し、必要な修正や判断を加える能力が重要になります[2][11]。
- **データ倫理とセキュリティ意識**: AI 利用に伴う情報漏洩リスクや、データの取り扱いに関する倫理的配慮が求められます[11]。
- **知財コンサルティング能力の強化**: 定型業務が AI に代替される分、弁理士はより高度な知財戦略立案やビジネス支援といったコンサルティング業務への注力が期待されます[9][11][19]。
- **グローバルな視点**: 国際出願の増加傾向に伴い、海外の知財制度への理解や外国語対応能力の重要性が増しています[19][21][55]。

5 年後の業務量への影響予測

現時点で「弁理士の仕事の何割がなくなるか」という具体的な数値を提示することは困難です。しかし、AI の影響により、業務の構成比率や業務量が変化することは確実視されています。

- **定型業務の作業時間削減**: AI による効率化・自動化が進む業務領域では、弁理士が従来費やしていた作業時間が大幅に削減されるでしょう。これにより、より少ない人数で多くの案件を処理できるようになるか、あるいは一人当たりの作業負荷が軽減される可能性があります。
- **高付加価値業務へのシフト**: 削減された時間を、より創造的で戦略的な業務、例えばクライアントとの深い対話を通じた発明発掘、知財戦略コンサルティング、新規事業支援などに充てることが可能になります[5][11]。
- **業務の質の変化と専門性の深化**: 単純作業は AI に任せ、弁理士はより高度な法的判断、戦略的思考、クライアントの事業への深い理解といった専門性を深めることが求められます[1][22]。
- **情報格差と二極化の可能性**: AI を積極的に活用し、新たなスキルを習得する弁理士と、従来型の業務に固執する弁理士との間で、対応できる業務の範囲や質、そして市場価値に差が生じる可能性が指摘されています[11][32]。あるシナリオでは、AI の導入によってコス

トダウンを進める大手事務所に対し、中小事務所や個人弁理士は「AI レベルを上回る高付加価値サービス」を提供できなければ、仕事を失う可能性も示唆されています[1]。
- **新人弁理士の育成への影響**: AI がドラフト作成などの初期段階の業務を担うようになると、新人弁理士が基本的なスキルを習得する機会が減少するのではないかという懸念も存在します[29][60]。このため、教育体制の見直しが必要になるかもしれません[29]。

業界の動向と専門家の見解

知財業界では、AI 技術の活用が急速に進んでいます。WIPO（世界知的所有権機関）の調査によると、生成 AI に関する特許出願件数は急増しており、AI 技術が各産業の競争力を左右する時代になっています[3]。

多くの専門家は、AI が弁理士の仕事を完全に奪うとは考えていません[22][56][71]。むしろ、AI を有効なツールとして活用することで、業務の効率化と高度化を図り、弁理士はより本質的な業務に集中できるようになると期待されています[5][11][67]。例えば、リーガルテック社は生成 AI「AI 孔明」を VDR に統合し、特許調査や契約審査などの業務を自動化することで、弁理士が高付加価値業務に集中できる環境整備を目指しています[12][59]。

一方で、AI の進化により、弁理士の業務内容が大きく変化し、一部の業務が AI に代替されることは避けられないという見方もあります[1][13][32]。特に、クライアントの指示通りに明細書を作成するような業務は、AI の影響を受けやすいとされています[32]。

重要なのは、弁理士自身が変化に対応し、AI にはできない付加価値を提供し続けることです[21][55]。これには、専門知識の深化はもちろん、コミュニケーション能力、経営的視点、そして AI を使いこなす能力の向上が含まれます[11] [21] [70]。

要約

5 年後、弁理士の業務は AI 技術の浸透により大きく変容すると考えられます。特許調査、翻訳、定型的な書類作成などの業務は AI によって効率化・自動化が進み、これらの業務に費やされる時間は減少するでしょう。しかし、発明の本質を見抜く力、複雑な法的判断、戦略的な知財コンサルティング、クライアントとの高度なコミュニケーションといった、人間の専門性や創造性が求められる業務は AI には代替できず、その重要性はむしろ高まると予測されます。

「仕事の何割がなくなるか」という問いに対して明確な数値を提示することは困難ですが、業務内容のシフトは避けられません。弁理士は AI を強力なツールとして活用し、より高度で付加価値の高い業務に注力することで、変化の時代を乗り越えていくことが求められます。AI と共存し、専門性を進化させることが、将来にわたって活躍し続けるための鍵となるでしょう。

1. 【生成 AI 書いて出し】弁理士が AI に仕事を奪われる世界 - note
2. <弁理士コラム>ChatGPT と特許業務の未来（第 1 回）
3. 弁理士の役割再考：AI 時代の特許戦略とビジネス価値創出 ...
4. 弁理士について｜ 経済産業省 特許庁
5. 知的財産法における AI の影響 - CHIP LAW GROUP
6. AI が特許や知財実務に及ぼす影響について解説
7. 生成 AI – Tokkyo.Ai プライベート AI 特許
8. AI 翻訳で翻訳家の仕事がなくなる？将来性とスキルアップの ...
9. 特許事務所の「知財コンサル」が苦戦する理由を - Toreru
10. 判例と中間処理に関する業務の紹介｜ 弁理士法人オンダ国際 ...
11. 【最新】弁理士と AI の関係性とは？将来性・仕事への影響 ...
12. リーガルテック社、弁理士の知財業務を革新する次世代 VDR ...
13. 短編小説 弁理士が AI に負ける日①｜ 徒然なるままに欧州知財実務
14. 商標担当者はどんな仕事をするのか - 大槻国際特許事務所
15. 訴訟活動と「ＡＩと著作権に関する考え方について」｜ブログ
16. 特許調査の費用軽減｜生成 AI がもたらす効率化と省コスト化
17. AI 搭載の特許明細書作成ソフトウェア - Questel
18. 弁理士業務への生成ＡＩの活用
19. 知財戦略策定をコンサルタントに依頼するメリットは？依頼先 ...
20. 「外国特許出願（米・欧・中・韓）の中間処理対応の全体像と ...
21. 弁理士に将来性はある？知財業界の今後
22. AI 技術で弁理士はオワコン化するか？｜ 弁理士監修の知財の知識 ...
23. 商標出願における弁理士の役割
24. 弁護士と弁理士 「AI」で明暗 - 日本経済新聞
25. ユアサポ AI｜ 生成 AI で特許出願書類作成の時間を大幅削減 ...

26. 第 177 回 AI の翻訳業界に対する影響は翻訳業界の体質にあるの ...
27. 弁理士は“知的財産に関する専門家”です。
28. 進歩性判断の近年の事例について｜ 弁理士法人オンダ国際特許 ...
29. AI の進化により、新人弁理士が研鑽する場所がなくなるかも問題
30. 生成 AI による業務効率化と活用事例集 - 技術情報協会
31. 特許事務所の仕事内容｜弁理士 松本文彦 - note
32. 短編小説 弁理士が AI に負ける日 あとがき
33. 生成 AI による特許明細書の作成に対するアンチテーゼ～請求項 ...
34. 弁理士業は終わりでしょうか？特許事務所勤務 ... - Yahoo!知恵袋
35. 知財経営コンサルティング｜ 特許事務所
36. ある一弁理士の個人史
37. 弁理士の 20 年後、30 年後はどうなる？ - スタディサプリ進路
38. 弁理士の独占業務とは？代表的な 5 つの仕事内容を解説
39. 弁理士業務と AI 特許作成
40. 2024 年現在で存在する AI 特許ドラフティングツール
41. AI 翻訳の影響で仕事が激減した翻訳者さんによる note が切ない ...
42. 知財コンサルティング活動｜ 弁理士法人 M&Partners
43. 特許の中間処理における戦略～現役の企業内弁理士が教えます
44. 弁理士の将来性はオワコン？今後の需要と供給を予測
45. 弁理士を変える理由と時期 - 東京綜合知的財産事務所
46. 特許出願書類作成を生成 AI で効率化 - PR TIMES
47. AI 活用で特許翻訳の出願費用を 40%削減 - TransPerfect
48. どんな人が弁理士（知財業界）に向いている？現役弁理士が ...
49. 【知財塾】中間応答（機械）ゼミの感想 - note
50. 特許出願や中間処理をする際の、特許事務所の弁理士と企業 ...
51. 特許実務における生成 AI の活用シーンとは - Smart-IP
52. 弁理士とは？業務内容や依頼するメリット、選ぶ際のポイント ...
53. 弁理士･特許技術者の将来性や需要･今後について解説
54. 弁理士の将来性はオワコン？今後の需要と供給を予測
55. 弁理士に将来性はある？知財業界の今後
56. 弁理士に将来性はある？今後の需要や AI 発達を踏まえて解説
57. 生成 AI 時代に求められる弁理士についての個人的考察
58. 弁理士に将来性はあるのか。需要と供給から今後を予測
59. リーガルテック社が AI 孔明を VDR に統合、弁理士の知財業務効率化 ...
60. AI の進化により、新人弁理士が研鑽する場所がなくなるかも問題
61. 弁理士のための ChatGPT 活用ガイド｜業務効率化と未来 ... - note
62. 「弁理士は食いっぱぐれる」は本当？ 将来性を徹底解説
63. 士業における生成 AI の活用方法とは？業務効率化と課題 - WEEL
64. 【生成 AI 書いて出し】弁理士が AI に仕事を奪われる世界 - note
65. 生成 AI の飛躍は、弁理士業界にバブルを巻き起こすか？
66. リーガルテック社、弁理士の知財業務を革新する次世代 VDR ...

67. 弁理士業務と AI 特許作成
68. 士業が AI を味方につけるには？士業のための業務効率化 5 つの ...
69. 知財業務 生成 AI でどこまでできる？
70. 弁理士に将来性はある？知財業界の今後【知財 HR】
71. 弁理士に将来性はある？今後の需要や AI 発達を踏まえて解説 ｜ 弁理士試験コラム
72. 弁理士とは｜ 日本弁理士会